時を惜しむ。我々は共に手をかふ日が来るのだ。

正しい政策の下に
怒る、処なく進め！
ダラ幹をそっちのけに
してドシ〜斗争を
展開せよ！

他工場の兄弟のために演説会を開こう

他工場の兄弟たちも我々と同じく不平不満要求を持ちながらそれらに訴へていいかわからないでいるのだ。ジッとこらへてゐるのだ。我が単組一千のそれはいつでもこれら兄弟の要求をきき、それを取上げ、それのためにオかふべきである。我々の力強い援護に力を得て此等の兄弟も立ち上って高々と現場のウラミをはらすべく斗争を開始するのだ。我々は此等兄弟の口からその不平不満要求をきくために、そして一部に力になり合って共同斗争をやる為めに先ず第一の手始めとして演説会を我が単組の主催で開しやうである。

一つ演説会には他工場の兄弟が沢山出てくれることは事なのだから各工場へドシ〜ビラを入れて充分な宣伝をしなければならぬ。演説会では他工場の兄弟にどし〜〜演壇を提供してその不平不満を爆発させねばならぬ。こうしてみんなが資本家に対する我々労働者の不平の力クマリをブチマケ合ふことによってみんなは力強く結ばれて共同斗争が出来るのだ。

我が単組の手で
即時演説会を開け！
他工場にストライキの
波をまき起こせ！

他所でストライキ戦術の研究会を開こう

此所にみんな集まってゐる時を利用してどうしたらストライキに勝てるかの研究会をやることは非常に必要である。互に今迄の経験を語り合ったり、此所のストライキや外国のストライキの経験をとらへて来たりして互に討論してゆくうちにみんなハッキリと正しいストライキ戦術をのみ込むやうになる。こうなれば自信を以って斗かふことが出来る。ダラ幹がどんなデマをとばそうとエンリョせずに切りうける。

外から入ったニュースやビラをくらべてどの方針がいいか悪いかを研究することも有益である。

1931.2.21

闘争

ストライキ九号

日本共産党
統一戦線部
基礎組織
工場分会

首脳部の解体について

首脳部は解体した。その理由は我々の単組は全員の集会が一部幹部にまかせたのではいけないと云ふのである。しかし全員ダラ幹共が主張したのだからおかしな話である。切離党の集会は全員の集会である。一千人の兄弟が大勢集まって議論の中心は、方針決定を論ずべき重要な活動を全員でしなければならぬ。しかし他オ小数の強固な指導部を有する単組は同盟部を好たな軍隊のやうなものである。これでは敵の心をつかむ味方の解剖を確保すべき連絡員の活動をもこれは出来ない。

我々の勝利のためには首脳部は絶対に必要なのだ。たゞ今迄の如き敵の廻し者の入り込んでゐる首脳部であってはならないだけだ。

おそれ多くする首脳部は全員の組織性に直接する首脳部である。

かくの如き首脳部にしてはじめて闘争に向ひ常いつも全員の利益と意志とを代表して動くことが出来る。かゝる首脳部にして初めて我が単組の勝利を確保することが出来る。

ダラ幹共は一体何故首脳部はイラナイと云ふのだ。それは首脳部は単組の勢力が少ないから彼等の勢力の強い手中を奪取されたから代へ、おそれ多くも指導権を己れの手中に収めやうと云ふ陰謀なのだ。我々は断乎に指導権をダラ幹一味の手に渡してはならない。闘争その時には他の単組同盟の協力はなるものだから。我々は如何なる犠牲を払っても真強力な首脳部の再建のために斗かはねばならぬ。かゝる真実の首脳部がどうして出来るか？それはダラ幹におかまいなくドシ〜斗争を進めてゆくことに斗争の展開によって真の首脳部を再建せよ。

闘争の手に渡すな！

デモと演説会

[illegible]

二 各部隊の集合場所と時間、解散場